

為替週間展望 = ドル円は方向感を探る動きか

[3月20日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		3月13日～3月17日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	135.03	135.11(15)	131.72(16)	132.92	-2.11
ユーロ・ドル	1.0653	1.0760(15)	1.0516(15)	1.0649	+0.0006

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
日経平均株価	27,333.79	-810.18	日本10年債利回り	0.288	-0.123
ダウ平均株価	32,246.55	+336.91	米10年債利回り	3.577	-0.122

< 来週の主要経済統計等 >

- 20日 英3月ライトムーブ住宅価格
中国最優遇貸出金利 (ローンプライムレート 1年、5年)
独2月生産者物価指数
ユーロ圏1月貿易収支
- 21日 NZ2月貿易収支
独3月ZEW景況感指数
カナダ2月消費者物価指数、カナダ1月小売売上高
米2月中古住宅販売件数
- 22日 英2月消費者物価指数、英2月生産者物価指数、英2月小売物価指数
ユーロ圏1月経常収支
米連邦公開市場委員会 (FOMC、21～22日) 政策金利
パウエルFRB議長記者会見
- 23日 スイス銀行政策金利
英中銀 (BOE) 政策金利
米新規失業保険申請件数、米第4四半期経常収支
米2月新築住宅販売件数
欧州連合 (EU) 首脳会議 (24日まで)
- 24日 日本2月消費者物価指数
英2月小売売上高
独3月製造業PMI速報値、独3月非製造業PMI速報値
ユーロ圏3月製造業PMI速報値、ユーロ圏3月非製造業PMI速報値
英3月製造業PMI速報値、英3月非製造業PMI速報値
米2月耐久財受注速報値
米3月製造業PMI速報値、米3月サービス業PMI速報値

【前回のレビュー】FRBによる利上げペースの加速や金融引き締め長期化への思惑もあり、ドルは底堅い展開が続くそう。一方で、日銀は金融政策を据え置いたことで当面はドル主導でドル円は底堅い推移が見込まれるとした。

【リスク警戒感が高まる】

3月10日に発表された2月の米雇用統計では、非農業部門雇用者数は前月比+31.1万人となり、事前予想の+22.5万人を上回った。ただ、失業率が3.6%となり、事前予想や前回の3.4%を上回り、平均時給も小幅ながら伸びが鈍化した。これを受けて、次回FOMCでの地上げペース加速への警戒感が後退した。

さらにSVBフィナンシャル・グループ傘下のシリコンバレーバンクが経営破綻したとの報道もドル売り円買いにつながり、10日のNY市場でドル円は一時134円台前

半まで円高に傾いた。13日にはNY州の地方銀行シグネチャーバンクの経営破綻を受けて、金融システムリスクへの警戒が広がった。米長期金利が低下したことで、ドル円は132円前半まで下落した。

金融システムへの警戒感が高まる中、13日に米財務省や米連邦準備制度理事会（FRB）などの米当局は預金の全額保護を打ち出した。バイデン米大統領も預金者を保護する姿勢を強調しており、預金者の不安心理の払しょくに努めている。こうした動きで株式や金融市場はいったん落ち着きを取り戻した。

3月14日発表の米2月消費者物価指数は、前月比が若干予想を上回ったものの、前年比が総合もコアも予想通りとなった。15日発表の米2月生産者物価指数は前年比+4.6%、前月比-0.1%といずれも市場予想を下回る結果となった。コア前年比は+4.4%、前月比変わらずと、こちらも予想を下回った。

2月米小売売上高は、前月比-0.4%と事前予想（+0.2%）を下回った。コア前年比-0.1%と予想と一致したが、前回（+2.3%）から大幅減速となった。3月NY連銀製造業景気指数は-24.6と前回の-5.8や市場予想-7.9を大きく下回った。

米国でも地銀の破綻は特殊なケースで当局の素早い対応が市場に好感されたが、15日はクレディスイスという大手銀行の経営不安が金融システム不安につながり、各国での株式や金融市場のリスク回避の動きにつながった。ただ、16日に同行はスイス国立銀行（中央銀行）から最大500億スイスフラン（約7兆1000億円）を調達する用意があると発表しており、市場はいったん落ち着きを見せている。

米地銀の経営破綻を受けての金融システム不安、一連の米経済指標、欧州ではクレディスイスの経営不安などを背景に3月の米連邦公開市場委員会（FOMC）での0.50%の利上げ確率はゼロに低下、0.25%の利上げ確率が86%前後となり、以前はゼロだった据え置き見通しが14%前後となっている。こうした中、22日のFOMCでは0.25%の利上げの可能性が高い。利上げ幅に加えて、今後の政策金利の見通しやインフレ見通しがどのように変化しているかが注目される。

今回の金融不安に関しては、一部の銀行の特定の問題で金融システム全体に脅威を与える問題ではないと思われる。不安を払しょくするために当局も積極的に関与するとみられ、徐々に落ち着きを取り戻しそうだ。ただ、目先は他の金融機関の問題が顕在化する可能性もあり、ドル円はニュースや経済指標に左右されながら方向感を探る動きになるとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、129.00～136.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、21日に米2月中古住宅販売件数、22日に米連邦公開市場委員会（FOMC）政策金利、パウエルFRB議長記者会見、23日に米新規失業保険申請件数、米第4四半期経常収支、米2月新築住宅販売件数、24日に日本2月消費者物価指数、米2月耐久財受注速報値、米3月製造業PMI速報値、米3月サービス業PMI速報値などがある。

【ECB理事会では0.5%の利上げ】

16日に開催された欧州中央銀行（ECB）理事会では、0.50%の利上げを決定した。米銀の破綻やクレディスイスの経営不安などを背景に利上げ幅を圧縮するとの見方も一部にあったが、インフレ抑制を重視しての動きとなった。

理事会後の記者会見で、ラガルド総裁は、「経済は今後数四半期で回復すると思われる」「基調インフレは依然として強い」「成長へのリスクは下方に傾いている」「ECBはインフレ退治のコミットメント弱めていない」「金利の道筋について現時点でコメントすることは不可能」「現在の市場の緊張を注意深く監視している」などと述べた。

ユーロドルは15日にスイスの金融大手クレディスイスの経営不安などを受けて1.07台半ばから1.05台前半まで下落した。その後下げ渋りを見せているものの、1.06台前半までの戻りにとどまっている。ECB理事官後は1.05台半ばに下げた後に1.06台を回復しているが上値は重い。ユーロドルは欧米市場の金融機関関連の報道に左右されつつ、もみ合いで推移する展開となりそうだ。ユーロドルの目先の

予想レンジは、1.0400～1.0750ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、20日に英3月ライトムーブ住宅価格、中国最優遇貸出金利（ローンプライムレート 1年、5年）、独2月生産者物価指数、ユーロ圏1月貿易収支、21日にNZ2月貿易収支、独3月ZEW景況感指数、カナダ2月消費者物価指数、カナダ1月小売売上高、22日に英2月消費者物価指数、英2月生産者物価指数、英2月小売物価指数、ユーロ圏1月経常収支、23日にスイス銀行政策金利、英中銀（BOE）政策金利、24日に英2月小売売上高、独3月製造業PMI速報値、独3月非製造業PMI速報値、ユーロ圏3月製造業PMI速報値、ユーロ圏3月非製造業PMI速報値、英3月製造業PMI速報値、英3月非製造業PMI速報値などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。